

調布には里山がある



佐須地区の田んぼから谷戸地形の自然広場（通称カニ山）を望む里山風景

武蔵野段丘南側の国分寺崖線と言われる緑の崖の連なりは、雑木林の連なりでもあり、地下の水みちも続いている。調布市佐須のあたりでは切れ込んだ谷戸地形となって湧水が流れ出し、その先で野川を形成している。湧水は佐須用水として今でもこのあたりの田んぼを潤す。

現在では都心から西側では一番近い里山と言われているが、昭和30年代以降は、野川の改修に伴い野川の水を田んぼに引き入れることができなくなったことや、高速道の建設に起因するのか湧水も減り、今は貴重な田んぼとなっている。



5月末日の苗：田んぼの学校の田植えに備えて育てられた苗。

このあたりでは市内ではめずらしくなった水辺の生き物が見られる。

野草園では毎年養殖ホタルが舞い市民を楽しませてくれるが、その奥でごくわずかに野生のホタルも発生しているという。また佐須用水にはホタルの餌として知られるカワニナや、アメリカザリガニ、アメンボ。田んぼにはアマガエル、ホトケドジョウやヌマエビ、ホウネンエビなども見られる。

多量の殺虫剤や除草剤は使われなくなったが、湧水や田んぼの減少が生き物に与える影響は大きい。



カワニナ：落ち葉などが積もる流れの緩やかな所に棲むと言われるが3面張りの佐須用水にも見られる。



様々な種類の野菜が作られている畑：手前からサトイモ・エダマメ・トウモロコシなど



ズッキーニ：丸型のズッキーニ。こういった新しい野菜も次々に作られている。



佐須用水：きれいな湧水が流れている。毎年田植え前には清掃が行われる。



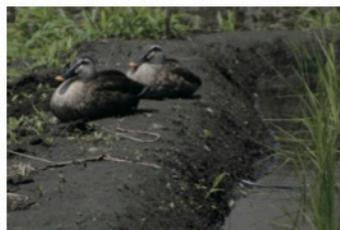
水門：大水のとき佐須用水を下水へ流すために設置されている。



国分寺崖線：雨などで削られた崖には関東ローム層の赤い土が見える。



堆肥：カニ山の落ち葉の他、府中競馬場でもらう敷き藁には馬糞が混ざり、良い堆肥になるという。



カルガモ：雑食のカルガモは田んぼの水をかき交ぜ雑草を生えにくくしてくれるがカワニナも食べてしまう。



ミクリ：6月は佐須用水のミクリの花が咲く時期。ポヤポヤした白っぽい花の後はクリのイガのような丸い実になる。

花の履歴書 21

戸部英貞 (絵・文)

ハンゲショウ (半夏生)
ドクダミ科



Saururus chinensis (Lour.)Baill.

花苜蓿の花も終わり、夏至が過ぎる頃になると、気温も高く水辺が恋しくなってくる。7月2日は24節気、夏至の末候「半夏生ず」で、夏至から数えて11日目(太陽が地球上の黄径100度を通過する日)半夏(カラスビシヤク)の花が咲く、またハンゲショウの葉が半分白くなるからとも言われている。

茎の先端数枚の葉が一部だけおしろいを塗ったように白くなることから半化粧、それも葉の表側だけが白くなることからカタシロソウ(片白草)の別名がある。

湿地を好むハンゲショウは水田の縁や里山の湿地などで、地下茎を伸ばして群生する繁殖力の旺盛な植物だったが、近年はそのような場所が開発によってなくなり、姿を見る機会が少なくなりました。

近年の地球規模の自然環境破壊は生物の多様性が急激に失わ

れており、日本も例外ではなく、絶滅の危機に瀕する植物のリストとして1989年に「我が国における保護上重要な植物種の現状」という表題でレッドデータブックが出版された。

それによると、すでに絶滅した植物が35種、個体数が極端に減少している絶滅危惧種が147種、今すぐ絶滅の心配はないが、生育地や個体数が減少している危急種677種、ほかに現状不明のもの36種、合計895種が絶滅の危機に瀕している。

その絶滅をもたす要因として栽培を目的とした採集が原因とするものに次いで、湿地の開発、次いで森林の伐採が挙げられている。

決して個体数が少ない、また繁殖力が弱いわけではない湿地を好む植物たちの中で、市内でも僅かではあるが観察されたフジバカマは絶滅危惧種、タコノアシ、ミクリは危急種となっている。

お年をめした 雑木林

調布市多摩川自然情報館 解説員 飯島 幸子



写真は、今から30年前位前、昭和55年頃に撮影した神代植物公園自然林の風景です。幼い私も映っています。写真をよく見ると、現在の風景と何が違うと思いませんか？

正解は、「樹木の幹が細い」です。私もかなり小さいけど、樹木も細くて若い！

いつも見慣れた風景も、こうして改めて写真を見てびっくり、30年経つと樹木もずいぶん成長して太くなるんですね。調布市やその周辺の斜面緑地には、コナラやクヌギなどの落葉広葉

樹が生育している場所があり、一般的に雑木林と呼ばれています。昔は、雑木林の樹木を薪や炭などの燃料等として利用していて、定期的に伐採を行っていたことから、林には若い樹木が生育していました。

ところが、石油などの化石燃料を使用するようになってからは、薪や炭が不要となり、伐採が行われなくなった雑木林では、枝や幹が太い高齢の樹木が増えました。高齢の樹木の中には、枝や幹が折れるなど、弱っている樹木も見られます。たくさん樹木が枯れてしまつて、雑木林の風景が消失しないか心配しています。

高齢の樹木と若い樹木が生育する元気な雑木林が増え、調布の緑を永く未来に引き継げるよう願っています。

Gasa Gasa in 多摩川

5/12(日)
調布水辺の楽校開校式 & 多摩川浅瀬の生き物観察
参加者 児童 35名・保護者 17名・スタッフ 25名

前日に雨が降って心配していた川の水量は増えておらず、天気も回復、絶好のガサガサ日和でした。むしろ、水量不足の点もありました。最初は「どうやったら捕れるの?」なんて言っていた児童達も、以下24種を捕獲できました。

※もつといたかも(笑)

当然採取の中には外来種も！だが水質もきれいになってきており、アユは採取できませんでしたがきれいな水辺で息する生き物も多数観察できました。



安全講習として水辺での活動ではライフジャケットの重要性を学びました。また、児童達には、水辺の楽校で作成した「お魚図鑑」配布。実物と見比べていましたね。児童自身の水生生物への関心と安全への意識が両立することで、楽しい体験になると思います。

安全のお手伝い・疑問へのお手伝いができるのは幸いです。

水辺の楽校サポーター 池ノ内伸行
ドジョウ、シマドジョウ、メダカ、オイカワ、ウグイ、ヨシノボリ、フナ、ミナミヌマエビ、スジエビ、モクズカニ、コイ科の稚魚、フロリダマミズコエビ、コオニヤンマ(ヤゴ)、サナエトンボ(ヤゴ)、カワトンボ(ヤゴ)、フタオカゲロウ、サホコカゲロウ、ヒゲナガトビケラ、ミスミシ、ヒル、アメンボ、オタマジャクシ、ブユ(幼虫)、ヒラマキミスマイマイ。

若葉緑地の会

■5月12日(日) 晴 12名

本日の活動は男女班に分かれ作業。富士見台、太陽広場などを草刈り。今年は去年よりドクダミやヘビイチゴ、ハルジオンなどが優勢。少雨のせいか太陽広場は土埃が立つほど乾いているのだが、雑草の繁殖力はめげずに本当に強し。

男性班は上部の葉が空を覆っている常緑樹を2本伐採。1本が上の方で枝掛かりしてしまい、梯子を使用したり一苦労。伐倒方向をミスし、あとで何倍も苦労するはめになってしまった。

第二緑地で、野薔薇と山百合を2株つつ発見。これからの夏の花を咲かせて見せられるか今年の夏の秘かなお楽しみ。

■5月23日(木) 晴 3名

太陽広場の崖下に歩道を新設。今回は下から5段ほど杭を入れた。残りは後日の活動日に継続増設の予定。

■6月9日(日) 9名

大坂口と北正面入り口草刈り、枯れ枝片づけと歩道杭の補修。古い丸太が朽ちて土中に埋没しているのが3か所あった。他4か所ほど新しい丸太を交換するなど補修した。丸太の杭の寿命は3〜4年のようだ。

大坂口の林内は、アズマネザサ、サネカズラ、アイビー、シユロなどが繁茂していたが全員で集中的に刈り取り作業をしたお陰で、短時間ですっきりと明るくなった。北入り口のムラサキスキブが紫の花満開。皆で品のある香りをかいだおかげで今日の疲れが消し飛んだ。

■6月20日(木) 小雨 3名

小雨の中、晴れ間をぬい北側入り口の歩道杭を全面補修。台風がらみの雨のおかげでやっとツユクサがポツリポツリと青紫の花をつけ始めていた。(辻)

若葉の森3・1会

■5月5日(日) 晴 参加7名

最初に第1緑地、第2緑地でキンラン・ギンランの生育状況を観察し、昨年よりも数が増えていることを確認。ギンランは昨年コンポスト柵を広げた区域にも。キンランは花が大きくしっかりしたものが増加。作業は、コンポスト柵の補強と、特に次週の「若葉の森の歌う会」に備えて落ち葉かき、ゴミ拾いを行いました。

■6月22日(日) 晴 参加6名+6年生1名

第1緑地に陽光を取りこむため高木剪定ばさみで高木の枝落し(更に高い部分の伐採は市に依頼したい)。また、コンポスト柵と階段の補修、落葉かきを行いました。

◆若葉の森で歌う会(第7回)

5月12日(日) 第一緑地で開催されました。約30名が参加。坂の途中で立ち止まり何曲か口ずさむ方々もいました。(N&K)



若葉の森で歌う会

キンランギンラン観察会

キンラン

ギンラン

入間・樹林の会

■5月19日(日) 曇り 参加者4名

樹林地内巡回後、民家との境界地のクズの伐採作業を行った。2年前に伐採し昨年に行わなかったが、急な繁茂はマテバシイ伐採の影響だろうか。少ない参加者だったが湿度も低く作業ははかどった。所有者が明記された乗り捨て自転車とタイヤが放置されていたので市へ連絡、見に行くとなかったということだった。今後は樹林地内にまともしておくことを確認した。マテバシイの広場の明るくなりすぎたガラソとした風景の変化にはまだ慣れない。

花はドクダミ・ムラサキカタバミ・ノゲシ・ヒメジョオン。実はアオキ・ヤブニンジン・ヘビイチゴ、鳥はシジュウカラ・ヒヨドリ・カラス。

■6月16日(日) 大雨のち曇り 参加者3名

進入路側から三角地の草刈りを行った。人数が少ないのと暑さで作業は進まなかったが、日当たりがよいため成長が早く刈り取りは急務である。道路側斜面にオムツ(ウンチ入り)やニンジンなど家庭ごみが投げ捨てられていた。通路柵の土中部分が腐り倒れていた。通路柵の補修が必要である。花は、アジサイ・ヒメジョオン・ノビル、鳥はヒヨドリ・ウグイス・ガビチョウ (安部)



クズの根

ノゲシ

ムラサキカタバミ

カニ山の会

■5月11日(土) 小雨 参加者2名

キャンプ場北側広場の昨年植栽したエリア内で腰高に成長し密生していたハルジオンの草抜き。その他、セイタカアワダチソウ・アレチノギク・メマツヨイグサ・オニタビラコ・タイアザミ・ハハコグサ・タネツケバナ・ヘビイチゴ・アメリカカフウロなど。



密生するハルジオン

刈りとり後

浅く広く糸状の根をはる草が多く、引き抜くと土ごとえぐられ大きな穴ができる。できるかぎり抜いたが細かい根が網目のように地面の表層を覆っており、これらを千切

る処置をした方が良く思う。霧雨のように降り続く雨が時折雨粒を感じる強さに、隣の草むらで蛙が鳴いていた。エリア内と正面の草刈りを終え、刈った草を2か所にまともて作業終了。(瀬本)

■6月8日(土) 晴れ 参加者5名
植樹範囲周辺部、及びフェンス沿いの下刈りを実施。ススキの藪の中にまだ羽が生えていないキリギリスを発見。

カラスウリや・アキノノゲシは刈り残したが、残す種類の判断については更に考えたい。前回植えたコナラの数本が枯れたのは残念。こまめな給水が必要と思われる。東樹林の東側は、林縁部にササが出てきた。乾燥しないようにササ刈りを控えていたが、内側は刈り初めても良いと思う。気象の変化の影響が、草地の状態が変化している。今後は役割を決め、定点観測をしていくことに。(活動報告より)

緑のカーテンで夏を涼しく!

今年も6月8日環境フェアにおいて市からゴーヤの苗800株が配布された。

「なかなかうまく育たなくて:」という声もきかれたが大きなコツは3つ。

①芽かき1mほどに育ったとき、親づるの



先端を摘んで腋枝を伸ばす。

②肥料と水はたっぷり

③大きくて深めのプランター(または地植えに)を用意すること。

こちらのお宅ではプランターの上に板を立ててさらに土を入れ、深い物にしていた。そのせいか6月中旬にはもう立派にカーテンと呼べる状態に。真夏には2階まで伸びて西日を防いでくれると言

あなたのおうちのカーテンはいかがですか?

雑木林ボランティア講座 前期 第2回

6/2(日) 保全作業における安全管理

◆野外活動において危険なことは? 特に調布あたりでも被害に合いやすいスズメバチは、危険な季節や営巣場所を知り、危険を避けること。被害に合ってしまったときのポイント。リムーバーの使い方や毒の洗い流し用にペットボトルのフタに穴を開け、予備に持っているジョウロのように使える、など実際に役立つ知識を学んだ。

植物ではツタウルシはかぶれやすく危険だが、見た目で見ているツタはマキヒゲの先が丸い吸盤になっているので丸はOKと覚えると良い。

熱中症には、凍らせたペットボトルを持参して体を冷やすと良いこと、また老人ほど熱センサーが弱まっているので「大丈夫だ」と思うことが、命の危険を招くことを知った。



◆午後は実習を通して道具(鋸、鎌)の使い方。鋸の種類を知り、その材に適した道具を使うこと。実際に30センチ程のノコと大ノコを使い分けて丸太切りをした。刃の使い方・体の使い方等、その都度講師に注意を受けながら全員が体験。

鎌(カマ)はノコガマと普通のカマの使い分け。実際に作業対象の植物に合わせて道具を選んで、「ドングリの森づくり」フィールドの草刈を行った。(写真上)草刈体験は、結果がわかりやすいので、達成感も得られる。

作業後はヤニ落としやサビ防止剤を塗布。ブラシ(歯ブラシ)をかけ、道具の手入れの大切さを学んだ。

6月の多摩川河川敷

by 調布市環境モニター

6月1日 多摩川市民広場前河川敷において植物観察。

市民広場前から河川敷に降りた辺りはワンドとなっていた場所だが、ここ数年は河川改修工事や台風で流れが大きく変化し、単に水溜りのようになっていた。それでもマコモなどの水辺の植物のほかカワジシャが咲いていた。オオカワジシャは水色のきれいな花だが外来種。在来種のカワジシャは地味だが今では準絶滅危惧となっている。



カワジシャ



オオカワジシャ

今年度 後期 雑木林ボランティア講座日程

- ★10/26 (土) 生き物から見る雑木林の生態系/観察
 - ★11/16 (土) 冬の雑木林と農業との関わり/火燭し体験等
- 申込・問合せ 環境政策課: 042-481-7086

環境市民活動スケジュール

人間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接人間地域センターへ。

- 7/21(日) 9:30~12:00
- 8/18(日) 9:30~12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 7/13(土) 10:00~12:00
- 8/10(土) 10:00~12:00

★7/14は「西原自然公園見学会」を行います。調布市内で保全活動をしている方は是非ご参加ください。

連絡先 080055581445

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 7/14(日)・25(木) 9:30~12:00
- 8月の作業はお休みです

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 7/7(日) 9:30~12:00
- 8月の作業はお休みです

先の4つの活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。

042-481-7083

環境モニター

主に多摩川の植物観察と記録を行っています。(問合せ:環境政策課)

●9/7多摩川自然情報館前の植物観察

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行: ちょうふ環境市民会議 連絡先: info@chofu-kankyo-shimin.org

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、市図書館 10 館、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、ぬくもりステーション、神代植物公園植物多様性センター、世田谷ビジターセンター、野菜食堂みさと屋さんなど。

※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆